

小 論 文

2月25日(土) 情報学部(情報社会学科) 9:30 ~ 11:30

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、3ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて別紙解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は、採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

・書き出し・改行後は、一マスあけない。 ・句読点なども1文字と教える。 ・英数字は一マスに2文字入れてよい。
--
- 6 問題は、声を出して読むではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章は、『映画を早送りで観る人たち ファスト映画・ネタバレ——コンテンツ消費の現在形』（稲田豊史著、光文社、2022年）の一部です。よく読んであとの問いに答えなさい。なお、問題作成のために文章を一部改変しました。

著作権の関係上，公表しません。

著作権の関係上，公表しません。

(注1) コスパ：コストパフォーマンスの略語。かけた費用・労力に対する成果。費用対効果。

問1 下線①に関連して、映画やドラマが「作品」と呼ばれる場合と「コンテンツ」と呼ばれる場合で、それを観る人々の態度・認識がどう異なるかを説明しなさい。(250字以内)

(配点 40%)

問2 今後、「作品」と「コンテンツ」はどのように受容されていくか。具体例を挙げてあなたの考えを述べなさい。(400字以内)

(配点 60%)

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文(私費外国人:令和5年度)	問題番号	
対象学部・学科(課程)等	情報学部(情報社会学科)		
出題のねらい	<p>映画などを早送りで観る行為の是非を題材として用い、日本語の文章を正確に読む能力と早送りで映画などを観る理由を理解する力、そして今後の享受態度の展開についての意見を問う。</p> <p>問1は、日本語の文章を正確に読む能力と、文章を適宜要約しながら設問に的確に答える能力が問われる。本文中の「作品」と「コンテンツ」という二つの呼称がどういう視聴態度・認識によって違っているのかについて説明を求める。</p> <p>問2は、情報社会学科への進学後に必要となる情報関連の問題への関心や問題意識が問われる。「作品」と「コンテンツ」と区分される映画やドラマが今後、どのように受容されていくか、具体的な事例をもとに自分の意見を整理して述べることを求める。</p>		
採点基準	<p>問1(配点40%)</p> <p>日本語を時間内に正確に読めているかを評価する。この設問では、「作品」と「コンテンツ」について、作者の定義を踏まえて、観る人の享受態度を的確に要約して解答することができているかを評価する。</p> <p>問2(配点60%)</p> <p>「作品」と「コンテンツ」は今後、どのように受容されていくか、それぞれの享受態度を正確に理解し、それぞれがどのように進展していくかを具体的かつ明確に述べる点を評価する。自分の考えを具体的に、説得力をもって表現できている点を評価する。これまで映像作品とどのように向かい合い、そして映像作品の享受がどのように展開していくか、将来の見通しを整理して述べる能力を問う。</p>		